

2018 年度後期 授業改善アンケート集計結果に対するコメント

—キャリアセンター—

キャリアセンター長 山重 芳子

全学共通教育科目のキャリアセンター開講科目では、実施対象科目数 9 科目（実施必須科目数 2、実施任意科目数 7）中、8 科目でアンケートが実施されました。授業全体に対する評価である、項目 10「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」は、4.25 と大学全体平均のより高い評価が得られています。

項目 10 と強い正の相関関係がみられたのは、項目 9「この分野への興味・関心が引き起こされた」（相関係数：0.80）、項目 5「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」（相関係数：0.66）、項目 8「シラバスと授業の内容が一致していた」（相関係数：0.65）でした。各科目の教育内容が充実している証左と言えます。

大学全体との比較で見ると、項目 7「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した」の評価が 4.37 と大学全体平均 3.86 より高く、項目 10 とも強い相関（相関係数：0.56）が見られます。用いられた授業手法に関するアンケート結果によると、グループワーク（回答率：55.8%）課題（43.3%）に加えて、質疑応答（32.7%）、ディスカッション（33.7%）、プレゼンテーション（29.8%）、外部講師招聘（28.8%）が高い頻度で実施されていることが示されており、学生の積極的参加を促す授業が実施されていることがわかります。

授業を通じて身についた資質・能力に関するアンケートでは、「この分野の知識、学力」（回答率：70.2%）の他に回答率が 2 割を超えているのが「コミュニケーション能力」（34.6%）、「柔軟な発想力」（31.7%）、「協働力」（25.0%）、「プレゼンテーション能力」（21.2%）です。大学全体では「この分野の知識、学力」（74.8%）の他に回答率が 2 割を超える項目がないことから、キャリアセンター開講科目が多様な資質・能力を育成するきっかけになっていると言えるでしょう。

一方で、「1 回分の授業にあたり、授業時間外の事前・事後学習のために費やした平均の時間（h）は・・・」という質問に対し、「ほとんどしていない」あるいは「30 分未満」と回答した受講者は合わせて 58.0%と高い傾向が続いています。学生の主体的な学びが授業時間内に限定されなくなれば、多様な資質・能力がさらに育成される可能性が残されています。

以上